

日 時：平成 27 年 11 月 4 日（水）18 時 30 分 ～20 時 00 分

場 所：小和森多目的研修集会施設

対象地区：荒田、小和森

参加人数：15 名

内 容
<p>○融雪溝について</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>流雪溝の要望が多い。できるならばいくらかでも増やして欲しい。</p> <p>（市の回答）</p> <p>流雪溝に関してはいろんなところから要望がある。雪対策を考えれば流雪溝は必要だが設置するにはかなりの経費がかかる。流雪溝を設置した場合、雪の流れていく先、流す水源の確保、協力して雪を片付けてもらえるかなど、沿線の人たちの理解を得られるならば国や県の事業を活用してやるのはやぶさかではない。条件が整っていれば整備に向けての事業化は可能かと思う。</p> <p>地域の協力が第一である。この地区だと勾配が少ないので流雪溝より融雪溝が現実的だと思う。流雪溝の場合、確かに効率はいいが流れが悪いと水害が起きる恐れもある。融雪溝であれば徐々に溶けていくというメリットもあり、危険度も少ない。転落して流される恐れも少ない。しかし深さが必要となるため勾配がとれない。どこかが詰まったりした場合、町会で協力をして雪庇の除去などが必要となる。</p> <p>工事については、歩道などを使うがなかなか用地の確保が難しい。用地が玄関先になった場合協力が得られるのか、電柱を敷地に入れてもらわなくてはならなくなるなど、様々な障害が多く、現実に新たに融雪溝・流雪溝を設置する工事はなかなか進んでいない。</p> <p>地域懇談会にいくと大体の町内会からは「市で作って市で管理してほしい」と言われるが難しい。雪国なので非常に効果的であることは立証されているので、前向きに検討はしていきたい。</p>
<p>○ロマンロードへの道への整備</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>以前から要望している件だが、柏農高校前駅からロマンロードへ抜ける道について今までは拡幅して車が交差できるようにと要望していたが、拡幅までいかななくても簡易舗装でもよいので、退避場所を 2、3 箇所設けてもらえればと思う。</p> <p>（市の回答）</p> <p>段差が激しいところと曲がっているところがあり、なかなか新たな道路をつくるのは難しい。維持管理や修理だけでも費用がかかるが、距離もある。たとえば 5 か年計画としても相当な投資がかかるため、市民や議会に了解してもらうのは非常に難しい。道路脇に住宅があるなどであれば説明もつくだろうが。</p>

国・県の事業で活用できるものがあれば考えてみる。

○介護保険の給付・減免手続きについて

(市民からの要望・質問)

介護保険の給付・減免の手続きの時、被保険者が減免してもらうための負担限度額認定申請書があるが、その申請書の中に被保険者の預金・貯金がどのくらいあるかを書く記入欄がある。その他に通帳のコピーの添付も求められる。なぜ必要なのか。貯金通帳をコピーして添付するかわりに所得証明書で代用できないのか。

(市の回答)

介護保険の負担限度額の認定については、制度が変わり1,000万円以上預貯金のある人についてはその金額を下回るまで減免はできなくなった。預貯金のある高齢者には通常の料金を負担してもらうという制度に変わった。その確認のためにどうしても通帳のコピーの添付が必要になる。

(市民からの要望・質問)

通帳のコピーをとらずとも、所得証明書をとればそれで済むのではないか。

(市の回答)

所得と預貯金の額は全く別なので、所得証明書では確認はできない。その添付がないと減免ができないような制度になってしまったので申し訳ないが省略はできない。

○介護認定について

(市民からの要望・質問)

介護認定は市の職員が来て本人と対談して決めるが、前は介護度が高かったが、本人が人と話をする時悪いふりをしない。一生懸命いいように答える。そのおかげで介護度が下がった。

病院に行くためにヘルパーに連れて行ってもらい、病院の治療の付き添いもやっていた。しかし介護度が下がったおかげで病院には行き帰りの送り迎えだけになった。ところが本人は病院の中を迷って歩くので、別の有料の付き添いをつけなくてはならなくなり、それがかなり高額である。認定する職員も本人と話して決めるだけでなく、周りの人にも聞いて決めた方がいいと思うのだが。

(市の回答)

現在介護の認定については申請があると、まず調査員が家庭に出向き、対象者だけでなく必ず家族の方などにも話を聞くようにしている。

(市民からの要望・質問)

それはあったようだが、結果的に介護度が下がっていた。

(市の回答)

それにプラスして医師の意見書をもらう。家族の話もかなり重視される。それを津軽広域連合に判定をお願いしてバラつきのないように介護度は決まっていく。

(市民からの要望・質問)

介護認定を受ける時に平川市はわりと対応が早いと言われ喜んでた。その時は確かによかったがその後また認定をうけるときに介護度が下がっていた。せっかく介護保険料をたくさん払っているのに。やはり認知症などが多くなったせいでそうなったのか。

(市の回答)

どちらかといえば以前がちょっとゆるかったかもしれない。調査書の内容も変わってきている。医師や介護の判定をするチームが何チームもあって、判定してくれているので、同じ状況なのにこっちが高くてこっちが低いといった判定にはなっていないかと思う。

(市民からの要望・質問)

認知症に関しては去年に比べて良くなったというのではないと思うのだが。進行することはあっても治ることはないと思う。

(市の回答)

家族の方が普段の状況を一生懸命お話ししてもらえればありがたい。どうしても納得がいかないようであれば再度申請もできるし、不服申し立てもできる。

(市民からの要望・質問)

不服申し立てまではいかなくとも、もう一度調べてもらうことは可能なのはわかった。

(市の回答)

窓口の方に相談にきてもらえればと思う。

介護度の認定に関しては施設で認定したりするとどうしてもゆるくなってしまう。国としても認定を厳しく見ていかなければならないが、一方で弊害も出てきているというのは確かである。認定に関して納得できない部分があればもう一度市役所の方へ来てもらい、話をしてもらえれば対応する。

○不登校について

(市民からの要望・質問)

平川市の中学校で不登校が増えているという話を聞いたのだが、市にいるスクールソーシャルワーカーの存在や活用方法を知らない先生や保護者もいる。活用の仕方、情報交換の仕方はどういう風にやったらいいのか。特にいじめというより病気などが多いらしい。スクールソーシャルワーカーがいるのであれば保護者に教えてあげてくれれば活用できるのではないかと思うのだが。

(市の回答)

尾上総合支所に教育委員会があるのだが専門にいじめと不登校のことを各中学校と連携をとっている相談員がいる。

精神的なもので学校に行きたくないという子どももいる。そういう時は尾上総合支所に連れて来てもらい、学校の先生がいるのでそこで授業をしている。一日に一、二時間マンツーマンで指導している。少しずつ学校に慣れるための準備をしている。中学校との話し合いのもと、症状に合わせた支援をしている。

学校にも相談員を配置しているが各学校を回っている相談員もいるし、たとえば病気の場合はまた別で看護婦の資格がある人が一人一人に付いている。呼吸の手伝い、痰を取るなど個々に合わせている。

問題は本人はどこも悪くないと言うが学校に行きたがらない子どもたちである。その子どもたちはなかなか尾上総合支所の方にも来てくれない。指導課まで来てもらえれば改善の目途はつくのだが、学校だけでなく家族の協力も必要となる。なぜそうなったのか時間をかけて話をしていかないと難しい。学校と保護者と子どもと教育委員会と連携をとりながら原因を分析するため情報が必要である。初動が大事なので、重症化する前に地域からでも学校にどんどん教えてもらえればいい。

(市民からの要望・質問)

相談員は各中学校には一人はいるのか。

(市の回答)

そういう件が発生した場合は行くこともあるし、いつでも呼んで下さいという対応はとっている。常駐はしていない。教育委員会の方には常駐しているのでそういった場合は学校へ行く。それで学校へ行きたくないとなれば尾上総合支所の方へ来てもらうとか、学校でいいのであれば個室を用意してもらうなどの対応をしている。

尾上総合支所で先生の指導を受けたりするとそれも出席になっている。

十和田市の図書館では、小さい部屋があって不登校の子どもたちがそこへ来て専門の先生が指導している。様々なところを参考にしながら平川市で子どもたちを守っていかなくてはならない。子どもたちは地域の財産なので、なんとか守っていけるような対応を考えていかなくてはならない。

(市民からの要望・質問)

現にソーシャルワーカーがいるということを保護者はわかっているのか。

(市の回答)

わかっていると思う。学校から教えている。学校の方へ行くこともあるし、学校へ行きたくなければ尾上総合支所の方へ来ることもできるということは全学校の先生が共有して

いる。不登校で行方不明とか、どこかへ遊びに行ったとかの場合もあるので、学校とは連絡を密にしている。

○人口減少対策について

(市民からの要望・質問)

人口減少に対して、平川市としては現段階での具体的な方針はどのようなのか。

(市の回答)

素案ができたばかりでまだこれからなのだが、自然減の対策に関しては、去年子育て支援課を作った。

また第二子からの保育料の無料化を去年4月から始めた。これを行っているのは県内では平川市と西目屋村くらいである。

3年前から子育て支援の住宅の補助も行っている。これは子育て世代の若い夫婦が新しい家を建てる場合に一件あたり40万円、地元の建築業者を使えば20万円上乗せして60万円の補助をしている。ここ3年間で120件くらい市の補助を受けて家を建てている。そのうち市外から入ってきている人たちが25件で約100人。医療費の無料化、今年度から中学校までは入院に関して500円はかかるがそのほかは無料化などの子育て支援を行っている。

もうひとつは、健康寿命を延ばしていこうということで健康づくり宣言をし、9月に健康づくりに関する条例を作り、食の改善、運動、健診、心の健康など自然減に対して対応している。

社会的な減少、いわゆる産業、雇用の場の確保など、企業との連携をとりながら雇用の場を確保していくということが第一である。新しい誘致企業を求めるとするのは非常に難しい状態だが、いまある企業のみなさんにいままで以上に元気になってもらい、生産量や会社が大きくなればそれだけ雇用の場が大きくなると思うので、市として企業と話し合いをしながら対応をしたい。

バイオマス発電でも90人くらいの雇用があり、原材料を提供するバイオチップとバイオマスエナジーの発電会社の両方で3、40名くらいの雇用があった。さらにバイオマス産業都市構想というものをつくっており、熱を利用し近辺に様々な農業施設などを造ることによって雇用も増えるのではないかとということで、まだ認可にはなっていないがそういった計画を国の方へ申請している。

他からの人の呼び込み、いわゆるIターン、Uターン、Jターンも対策として考えている。子育て支援の中でも2件は県外から制度を利用して平川市に家を建てた。

それらを踏まえながら人口減少対策を進めていこうとしている。職員からも90数件くらい提案があり、それを組み込みながら総合戦略を立てている最中である。

○介護施設の待機者について

(市民からの要望・質問)

今回の国の戦略の中で介護の待機者を20年を目標に0にしようというものがあるが平川市では介護施設とか、計画的に国のそれに則ってやっていくか、どのレベルまで検討し

ているのか。

(市の回答)

介護保険ができた時は在宅の介護が基本だった。いまでもそれは変わらないがどうしても施設でないと面倒を見られないということもある。例えば夫婦二人の家など、もし寝たきりなどで面倒を見なくてはならなくなった時、どちら一人が家にいて面倒を見なくてはならなくなる。そうすると仕事ができなくなるので施設介護というのは本当に必要であると思う。

何年前かに県の調べで平川市の待機者は100人程度であったと思う。直近では調べていない。複数の施設に声を掛けている人がいることもあると思われるので実際のところは不明である。

(市民からの要望・質問)

うちの母親が認知症で施設に入って一週間に一回行っているのだが、状況を見るとまだまだ必要なのかなと思う。

(市の回答)

介護施設の数では平川市は多い方である。ただその分介護保険料も上がってしまう。今6,480円だが、まただんだんと上がっていくだろう。介護が必要な人が多くなり、しかも施設介護の利用となるとどうしてもお金がかかってくるので、介護保険料も上がっていくのはやむを得ず、これからの高齢社会の中にあっては非常に苦しい。だから健診など受けてもらい、介護が必要にならないように元気に年齢を重ねていってもらい取り組みをしなければならない。

(市民からの要望・質問)

いま子どもたちも学校が終わってからの支援施設というものがあるが、介護施設に入る前の健康支援施設のようなものはあるのか。

(市の回答)

デイサービスセンターに週一、二回行ってお風呂に入れてもらったり食事をしたりするというものがある。ホームヘルプサービスとデイサービスとショートステイが介護の三本柱であったが今は施設介護が主力になっている。

○健康診断について

(市民からの要望・質問)

健康診断を年に一回やっているのだが、今年は8月9日に受けた。妻も健診を受けたのだがだいぶ状況が悪かったようだ。というのも別な病気で入院して9月の末ころ退院したのだが、健診の結果の通知が来る前に吐血して入院してしまった。緊急を要するようなものは電話で連絡するなどないものだろうか。

(市の回答)

その通知まではかなり時間があったのか。

(市民からの要望・質問)

9日に受けて月末に来た。その中にすぐ病院に行くようにと書いてあったようだ。

(市の回答)

悪い人には早めに電話で連絡している。重症の場合、再検査する前にすぐ病院に行った方がいい人には電話しているようだ。だがそれも結果がきてからでないとできない。

これは部内で確認して、本当に緊急の場合は文書でなく電話で連絡するなどする。

○予防接種について

(市民からの要望・質問)

肺炎球菌の予防接種をやったのだが、各医療機関で料金は違うのか。

(市の回答)

全部違うようだ。

(市民からの要望・質問)

行政で補助金などは出しているものなのか。

(市の回答)

出している。2、3年前から5年刻みで、例えば65歳になった人、70歳の人などに補助金が出ている。5年経てばほとんどの人が受けるというかたちになっている。

(市民からの要望・質問)

医療機関によってさまざまな金額になっている。5千円のところもあるし3千円のところもある。

(市の回答)

仕入れする量によって、病院でも違うということは聞いている。

(市民からの要望・質問)

インフルエンザの予防接種は1500円と聞いたが、これもみんな違うのか。

(市の回答)

違う。助成する金額は同じである。

(市民からの要望・質問)

市内でも3千円のところもあれば5千円のところもある。私は1500円で受けたと言ったら「えっ!？」と言われた。かなりの問い合わせがいつたらしいが。

(市の回答)

医療機関に全て統一した金額でというのはできないようだ。

保険のきかないものなので、5千円のうち市で1500円助成するとすると、3千円だと差額1500円になるし、その料金は薬だけでないのかもしれない。

(市民からの要望・質問)

かなりみんな不満だったようだ。

○鷹の羽温泉脇の水路について

(市民からの要望・質問)

他の地域のことなのだが、鷹の羽温泉の小和森から出るところに堰があるが、蓋をかぶせたりなど、本町からなにか要望は出ているのだろうか。あそこに何人も落ちている。小和森では一昨年には九死に一生を得た人もいるが直らない。

(市の回答)

あそこは私も見て早くやらなくてはいけないと思い、県の方にはお願いはしているがなかなか進まない。柵はつけてもらっているが、県道なので県にお願いしてやってもらっているとところだがなかなか簡単にいかない。

(市民からの要望・質問)

小和森の側溝の蓋も自分が要請してから10年近くかかった。県道なので県に要請してくださいと言われ県に要請したら頭には入れておくという回答だった。本町からは要請はあるものなのか。

(市の回答)

歩道の整備も側溝部分と一緒に要請がきている。

(市民からの要望・質問)

あそこは本当に危険だ。冬になれば尚更だ。

早急にやってもらわなくては困る。

(市の回答)

なんとか早くできないかと話はしているがなかなか進まない。

約束はできないが、また県にお願いしてみる。

県に要望しているものが土木関係で22か所ある。通学路が絡んでいるとか子どもたち

が危ないところを先にやって欲しいということで順番がどうしてもそちらが優先される。危険箇所は何千万、億単位でかかるところなので一千万円以下でできる場所なら先にできないものかと県に話をしに行くつもりである。

○まちづくり懇談会の場所について

(市民からの要望・質問)

今日は荒田から私一人しか来ていないが、去年は19人ほど集まった。時間的な問題もあるがちょっと遠いというのが一番の理由ではないかと思う。できれば荒田の方でも開催してもらいたい。

(市の回答)

去年は40か所だったが今年34か所にしたので、組み合わせてやっているところが何箇所もある。今までも懇談会をやってきた中でも、組み合わせたところでその地区の公民館で開催できなかったところは多く来ていない。来年以降は、2年で各町会を一回りするとも考えている。今年一通りやらせてもらい、去年と今年の結果を見て来年度以降のやり方も検討したいと思っている。

岩館と原田と一緒にやったが岩館からも一人しか来なかった。岩館だけで開催した時は32人が参加した。やはり自分たちのところの公民館で開催すると集まるが、そうでないと難しいのかと思う。

他の県の例を見れば、人口減少に対応して地域自治組織という小学校単位くらいで集まっている地域みんなでやっという、市はそれに対して予算を出し、市の事業でなく地域に任せるといものは他県だとかなりある。私もそういう組織を目指したいと思っているが、今の段階で平川市に当てはめた場合、まだそれぞれの町会やもとのコミュニティでやっていかないと難しいのではという感じを受けている。将来的に地域づくりに関する問題を考えていかなければならないと思っているが、それぞれの町会がまだまだやれる分、平川市は町会でコミュニティを固めてもらった方がいいのかなと考えている。またできれば今年モデル地域をつくりたいという話もあり、学区で言えば一番作りやすいのはいま松崎小学区である。この次行ったときはその話を持ちかけてみたいと思っている。

町会長の皆さんと11月26日に町会要望等を含めた行政委員の会議があるが、それは年二回くらいしかやらないので、町会長さんたちも全部の意見を持って来れるわけではないので、聞いたからと言って全てできるわけではないが、行政と市民と相互理解していかなくてはならない。限られた財政の中で将来に向けての投資とすぐやらなくてはならないものとのバランスをとりながら行政運営をやっというわけではないので、そこを理解していただきたいと思う。

○マイナンバーについて

(市民からの要望・質問)

マイナンバー制度のことでいろいろとどうなっていくのかとテレビを見ているのだが、紛失した場合については何も出てこない。世帯にマイナンバーはまとめて届くと思うが、高齢者はある程度何かで使う時があると思うが、生まれたばかりの赤ちゃんや幼稚園の子

どもは大きくなるまでしばらく使わないと思う。その間にマイナンバーをなくしたらどうするのか。番号はかわるのか。

(市の回答)

番号はずっとかわらない。なくした場合は再申請してもらおう。マイナンバーの通知カードは、貯金通帳などと一緒にとっておくなど普段は外に出さないようにした方がいいと思う。

給料をもらっている人なら会社への届出を求められることになる。

(市民からの要望・質問)

成年になった人はいいかもしれないが小さい子どもは当然保護者が保管はするだろうがなくなる可能性は十分ある。もし落としたりしたら番号はどうなるのか。

(市の回答)

番号は変わらない。一生同じ番号である。

(市民からの要望・質問)

今日、行政上の配達ミスで事故が起きた場合は変更するというニュースがあったが、事故があった場合は変更もあり得るということでのいいのか。

(市の回答)

そういう場合はあり得る。また最初は無料だが通知カードを再交付の場合は500円の手数料がかかる。

○伝統行事について

(市民からの要望・質問)

最近、各集落の伝統行事がさびれてしまったような気がする。例えば昔流行った盆踊りなど。最近総会や何かの集まりをやっても全然人が集まらない。なぜこうなったのか。何かいいカンフル剤はないか。

(市の回答)

昔は一次産業中心だったので村で農業をやりながら自然にお互い助け合ったりして一緒にやってきたので、さまざまな伝統行事も後継者もずっと残っていた。今は勤めている人が多くなり家に寝に帰るだけの人たちも結構いるので、なかなか伝統行事というものを続けられなくなったということはあると思う。町会の役員や公民館が中心となって続けているところもあるので、小和森地区でそういったものがなくなってきたのであれば町会長を中心としながらやっていってもらいたい。

(市民からの要望・質問)

活気がなく、役員ですら出てこない。やっているという責任もない。辛うじて今やっているのは権現様だけ。昔は盆踊りでもなんでも皆やったのだが。

尾崎や広船、沖館、大光寺は獅子踊りがよく続いていると思う。本当にいいことだ。

(市の回答)

比較的、広船はりんご農家でご飯を食べている人が多いので、その中で後継者は育てていけている。尾崎、広船、新屋、町居、大光寺、沖館の6町会は頑張っている。

(市民からの要望・質問)

青年団がなくなってからめっきり駄目になった。

(市の回答)

言うことはわかるが、なかなか今そういった行事を復活させることは難しい。教育委員会と相談しながら社会教育の生涯学習のつながりの中でその方面からも地域づくりをやっていければと思っている。